第Ⅲ部
研究の総括







第１章　学校評価

１　はじめに

本年次研究を学校評価（全校生徒･保護者へのアンケート，教員の自己評価）の結果から見取る。アンケートの質問項目は，本校の教育目標「自立と共生の力をもつ生徒の育成」の具現化を図り，その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどを評価するために設定した。その中から，本校の今年度の研究実践の有効性について考察できると考える質問項目を選び，その結果を以下にまとめる。また「論理的に思考し表現する学び合い」に関する生徒の姿を見取るため，平成29年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査（３年生４月実施）の結果を参考にする。

２　全校生徒・保護者へのアンケート，教員の自己評価から

表１の評価の数値は，評価基準を４段階で設定してアンケート調査を行い，その平均値を求めたものである。生徒及び保護者のアンケートでは，４（そうだと思う），３（だいたいそうだと思う），２（あまりそうだとは思わない），１（まったく思わない），０（分からない）と設定し，教員の自己評価では実施率または達成率で，４（80％以上），３（70％以上），２（60％以上），１（60％未満）と設定している。また総合評価は，生徒，保護者，教員の評価平均値が3.2ポイント以上でＡ，2.5ポイント以上でＢ，2.5ポイント未満でＣとしている。

(1)　意欲的な学習活動の推進について

①～④のいずれの項目も生徒は3.2を超える高評価になっている。このことは，生徒が学び合いを通して学ぶ楽しさを味わいながら学べるよう，持続可能な社会を支える資質・能力の育成を目指して教材や題材，学習展開の工夫などの研究を推進してきた成果と考える。一方，④の項目では，教員の評価が2．6と低いことから，学びの振り返りを行っているものの，生徒自らが「育つ・伸びる」指導には改善の余地があると考えていることの表れであると考える。

(2)　主体的な生徒活動の推進について

⑤・⑥のいずれの項目も生徒は3.4を超える高評価になっている。このことは，各教科で培われた「きょうどう」の精神を学校行事等でも発揮しながら，自尊感情が醸成され，多くの生徒が自信と誇りを持って活動していることを示していると考える。

(3)　充実した道徳教育の推進について

⑦～⑨のいずれの項目も生徒，保護者の評価は高い。とりわけ項目⑧の生徒の評価は3.6を示しており，前項(2)の結果とともに，「きょうどう」の精神を発揮し合い，互いを尊重する支持的風土のある集団づくりをしてきた成果と考える。今後も道徳の教科化を念頭に更に研究を積み重ねていく必要があると考える。

表１　生徒・保護者へのアンケート，教員の自己評価

具体的な評価指標	評価			
	生徒	保護者	教員	総合
①　基礎・基本を確実に定着させるための学習指導を行うことができたか。	3.2 (3.2)	3.0 (3.1)	3.1 (3.2)	B (A)
②　基礎・基本を活用し，論理的に思考し表現する場（学び合い）を設定し，思考を広げ深め合う手立てを工夫することができたか。	3.2 (3.1)	3.3 (3.2)	3.1 (3.2)	B (A)
③　学ぶ楽しさ（探究心の高揚）を味わわせるために学習のねらいに応じた指導を工夫することができたか。	3.2 (3.4)	3.2 (3.2)	3.3 (3.3)	A (A)
④　学びの振り返り（自己評価）を行い，生徒自らが「育つ・伸びる」指導改善に向けて工夫することができたか。	3.3 (3.3)		2.6 (2.7)	B (A)
⑤　学校行事等において生徒が自信と誇りを持ち，継続して挑戦するための手立てを工夫することができたか。	3.4 (3.4)		3.1 (3.1)	A (A)

⑥ 学校行事等において仲間と共にやり抜く場を設定し，自己実現に向けて切磋琢磨できるための手立てを工夫することができたか。	3.5 (3.5)	3.2 (3.1)	3.2 (3.3)	A (A)
⑦ 生徒が有用感を感じる道徳の時間の指導の工夫をすることができたか。	3.1 (3.2)	3.2 (3.1)	2.6 (2.8)	B (B)
⑧ 仲間意識を高め，互いを認め合い，励まし合う支持的風土のある集団づくり（学級・学年等）のための手立てを工夫することができたか。	3.6 (3.7)	3.3 (3.3)	3.0 (3.1)	A (A)
⑨ 他者との学び，他者からの学びによる自己理解や他者理解を深めるための手立てを工夫することができたか。	3.3 (3.4)		3.0 (3.0)	B (A)

上段は本年度，下段（ ）内は昨年度の数値を示す。

3 全国学力・学習状況調査（３年生４月実施）の結果を踏まえて

表２より，⑩～⑮のいずれの項目も１と２で回答する生徒は，全国の割合より大きい。このことからも本校の生徒が，他者との対話に積極的に取り組んでいる姿がうかがえる。また，⑪～⑭から，生徒は自己を表現するだけではなく，他者を尊重し，他者から学ぼうとする「学び合い」の精神が培われていることが分かる。これらは，問答ゲームや言語活動を積極的に取り入れた授業実践の成果と考える。⑭からは，前述２－(3)との関係が見取れる。⑮からは，前述２－(1)の学びの振り返りについて，教員は低評価であったが，生徒は評価が高い。生徒が「育った・伸びた」と実感できる振り返りになるよう，工夫する必要があると考える。

⑯・⑰からは，多くの生徒が教科を学ぶ意義を理解し，学びを人生や社会に生かそうとしていることが分かる。これからの時代に必要な資質・能力が育っている表れと言えよう。

表２　全国学力・学習状況調査の結果

質問事項 選択肢　1：そう思う　2：どちらかといえば，そう思う　3：どちらかといえば，そう思わない　4：そう思わない　0：その他・無回答	選択肢				
	1	2	3	4	0
⑩ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	26.9 (17.7)	42.9 (32.9)	25.0 (34.3)	5.1 (14.9)	0.0 (0.1)
⑪ 友達と話し合うとき，友達の考えを受け止めて，自分の考えを持つことができますか。	64.7 (43.1)	33.3 (45.3)	1.3 (10.1)	0.6 (1.4)	0.0 (0.1)
⑫ 学級会などの話合いの活動で，自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけたりして話合い，意見をまとめていますか。	21.8 (10.5)	45.5 (30.0)	25.6 (37.4)	7.1 (22.0)	0.0 (0.1)
⑬ 生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか。	39.7 (19.8)	40.4 (45.0)	13.5 (26.6)	5.8 (8.1)	0.6 (0.4)
⑭ １，２年生のときに受けた道徳の時間では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	63.5 (32.9)	30.1 (42.6)	5.1 (18.2)	1.3 (6.1)	0.0 (0.3)
⑮ １，２年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	45.5 (25.2)	34.0 (40.6)	17.3 (26.9)	3.2 (7.1)	0.0 (0.2)
⑯ 授業で学んだことを，ほかの学習や普段の生活に生かしていますか。	43.6 (22.5)	42.9 (48.3)	12.2 (24.2)	1.3 (4.6)	0.0 (0.3)
⑰ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	17.3 (9.8)	35.3 (23.6)	35.9 (38.8)	11.5 (27.6)	0.0 (0.1)

上段は本校生徒，下段（ ）内は全国の結果のそれぞれの割合（%）を示す。

4 おわりに

研究実践により，生徒の自尊感情を高めるとともに，論理的に思考し表現することに価値を見いだし，他者との対話を通して共に学び，考えを広げ，深め，学習や生活の場面においても実践しようとする実践力を養うことができたと，学校評価などから見取ることができた。

今後も本年の実践を継続するとともに，次期学習指導要領も見据えた資質・能力，とりわけ「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながるよう，生徒自らが変容を実感したり，さらに伸びようとしたりできるような振り返りや評価の工夫が必要であると考える。

第２章　２年次研究のまとめ

１　論理的に思考し表現する力の育成に関して

まず，本校が今年度進めた言語技術教育について，生徒の意識調査（**資料１・２**）から考察する。意識調査は今年度７月と12月に実施したものと，前年度１・２年生の12月に実施したものを用いた。

	アンケート内容 ※回答　４（そう思う）　３（だいたいそう思う） ２（あまりそう思わない）　１（まったくそう思わない）	「４」・「３」と回答した生徒の割合（%）							
		１年生		２年生		３年生		全　校	
		７月	12月	７月	12月	７月	12月	７月	12月
①	問答ゲームで質問に答えることが好きである	82	81	78	80	82	88	81	83
②	問答ゲームで質問にすらすらと答えられる	72	66	67	69	77	90	72	75
③	問答ゲームで質問をすることが好き	78	70	67	72	80	83	75	75
④	問答ゲームでうまく質問ができる	63	57	55	59	69	82	63	66
⑤	学級でのスピーチで，発表をすることに自信がある	41	51	48	47	50	74	46	57
⑥	学級でのスピーチで，内容を分かりやすく伝えられている	65	55	58	57	65	78	63	64
⑨	各教科の授業で調べたことや考えたことを説明することが好きである	69	63	59	67	71	82	67	71
⑩	各教科の授業で調べたことや考えたことを上手く説明できている	62	57	58	59	68	81	63	65
⑪	相手に分かりやすく伝える力が高まっている	85	80	84	88	79	88	83	86
⑫	朝の時間（言語技術教育）で学んだことが，学習や生活などで役立っていることがある	「はい」として事例を挙げている生徒の割合（%）							
		96	98	96	97	93	97	95	97

資料１　言語技術教育に関するアンケート（一部抜粋）

	アンケート内容 ※回答　４（そう思う）　３（だいたいそう思う） ２（あまりそう思わない）　１（まったくそう思わない）	「４」・「３」と回答した生徒の割合（%）					
		２年生		３年生		全　校	
		H28	H29	H28	H29	H28	H29
①	問答ゲームで質問に答えることが好きである	85	80	88	88	87	84
②	問答ゲームで質問にすらすらと答えられる	63	69	80	90	72	80
③	問答ゲームで質問をすることが好き	81	72	80	83	81	78
④	問答ゲームでうまく質問ができる	55	59	69	82	62	71
⑤	学級でのスピーチで，発表をすることに自信がある	54	47	53	74	54	61
⑥	学級でのスピーチで，内容を分かりやすく伝えられている	57	57	63	78	60	68
⑨	各教科の授業で調べたことや考えたことを説明することが好きである	66	67	74	82	70	75
⑩	各教科の授業で調べたことや考えたことを上手く説明できている	62	59	61	81	62	70
⑪	相手に分かりやすく伝える力が高まっている	91	88	88	88	90	88
⑫	朝の時間（言語技術教育）で学んだことが，学習や生活などで役立っていることがある	「はい」として事例を挙げている生徒の割合（%）					
		87	97	80	97	84	97

資料２　言語技術教育に関するアンケート　28年度との経年比較（一部抜粋）

※全校の数値は２年生と３年生の合計における調査値

考　察

○　全体として，言語技術を習得・活用する学習については，生徒の95%以上がその有用性を感じる（質問⑫）とともに，自らの表現力が高まっていると実感している（質問⑪）ことから，昨年度より継続して取り組んできた言語技術教育の推進は，「論理的に思考し表現する力」の育成に有効な手立てであると判断できる。

○　質疑応答の質が，学年が上がるにつれて向上している（質問②・④）。また，各教科の授業における論理的な思考や表現の力が，学年が上がるにつれて向上している（質問⑨・⑩）。６Ｗ１Ｈに着目して伝えたり質問したりする言語技術教育の土台が確かになってきたこと，その上で，各教科で育成された思考力や表現力が，汎用的な能力として発揮されることがより明確となった。

○　１年生や２年生の12月における評価が低下していた。これについては，後期での発達段階に応じた問答ゲームの題材が難しかったこと，評価問題における記述において十分に記述に慣れていなかったことが要因であると分析している。質問①～④において，筋道を立てて発表したり，スピーチしたりすることを苦手とする生徒は「どのように質問したり説明したらよいか分からない」などと記述していた。このことから，発達段階に応じた言語技術を培う重要性，及び「話す・聞く」ことと「書く・読む」ことをつなげた指導を今後更に充実させる必要性が明らかとなった。

○　表現することに自信を持ち（質問⑥・⑩），苦手意識を払拭（質問⑤）させるために，言語技術教育や授業等で気付いたり得られたことについて振り返りの場面を保障し充実させることにより，高まった力（質問⑪）について，生徒自らがそのよさを実感できるようにする必要がある。

また，学校全体として設定した「論理的に思考し表現する力」の育ちについて，「問答ゲーム」や「テキストの再構成」を活用し，評価規準の検討，ルーブリックの作成等を行った上で，客観的にその育ちを見取った調査（**資料３**）から考察する。

【問答ゲーム】【出典：つくば言語技術教育研究所】

問題：問答ゲームのお題「あなたは夏に行くとしたら，海と山どちらに行きますか？」について，自分が質問をして，相手が答えています。
相手が，次のように答えました。

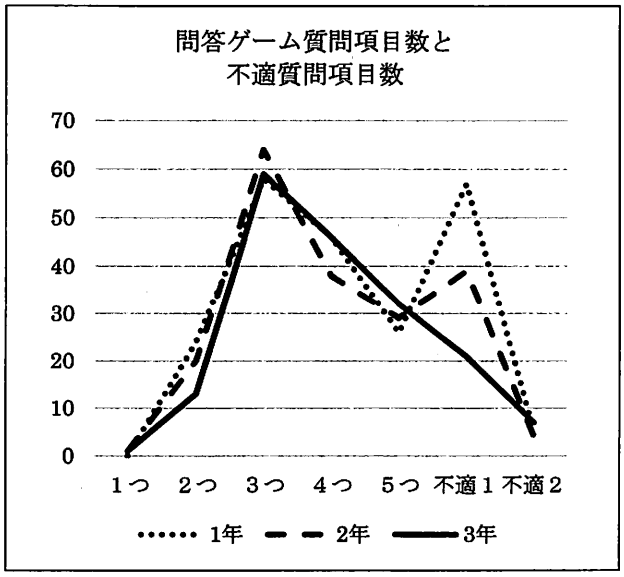
「私は，夏に行くとしたら，海に行きます。その理由は，以前に海に行ったとき，一緒に協力して活動して楽しかったからです。」

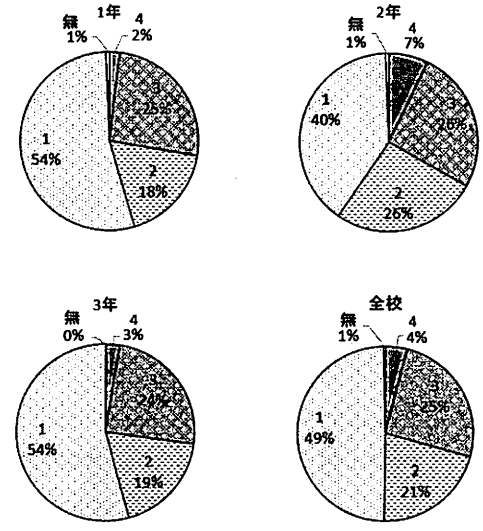
この発言に対して，どのような質問をすることができますか。質問を３つ以上（できれば５つまで）実際に質問する文章で書きなさい。

評価の観点：６Ｗ１Ｈの視点から，分かったようで分かっていないことを文章中から見抜き，質問してはっきりさせる。
○以前とは**いつ**？　○海とは**どこの**？　○海に行ったのは**どういう目的で**？
○一緒にとは**誰と**？　○協力したとは**どのように**？　○活動とは**何**？

【テキストの再構成】※Ｐ15　資料６　論理的に思考し表現する力を見取るルーブリックを参照

【実際の評価】　　問答ゲーム　　テキストの再構成





資料３　言語技術教育の実践における評価の実際

考　察

○　問答ゲーム（記述）の調査では，質問数や質問内容について，基準とする３項目以上の的確な回答が得られた。また，話の意図に適さない質問についても，学年が上がるごとに減少していた。このことから，言語技術教育において，６Ｗ１Ｈに照らして問答を行い，相手や自分の主張を明確にすることが，論理的な思考力･表現力の育成に有効な手立てであると判断できる。

○　テキストの再構成の調査では，各学年とも１と評価される生徒が約半数に至った。それは，先述の意識調査における課題と同様の要因であると分析している。しかし，結論を先に述べること以外では，それぞれの理由を文脈の中で整理して記述している生徒が多く見られた。このことから，筋道立てて説明するために，重要な要素に着目して整理することを更に意識付けることが必要であると分かった。

問答ゲームや一分間スピーチ，各教科での生徒の学習状況を見ると，言語技術教育の成果が現れている状況が確認できる。その状況の一端は，本稿の研究の実際等で述べられている通りである。ルーブリックづくりを含めて，次年度も言語技術教育を進め，その指導を充実させていきたい。また，その考え方や手法を各教科等で生かす学習指導方法の在り方についても，さらに研究実践を進めていきたい。

２　研究主題の具現化に関して

教科領域でＥＳＤの視点に立った問題解決的な学習の在り方について，生徒の論理的に思考し表現する学び合いを通した研究・実践を進めてきた結果，確かな生徒の育ちを見取ることができた。

(1)　逆向き設計論に基づく学習指導の充実

教師が持続可能な社会を支える資質・能力の育成を見据えて教科の本質を捉え，指導に当たることで，生徒は「何のためにその学習をするのか」を意識しながら，よりよく学習内容を身に付けることができた。特に，「本質的な問い」や「永続的な理解」を意識して指導に当たるとともに，パフォーマンス評価にそれらの要素を盛り込むことで，生徒は「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」に気付き，意識して自分のものにしていくことができた。

今後は「論理的に思考し表現する学び合い」をどのように「持続可能な社会を支える資質・能力」の育成につなげていくか，構想を更に練っていく必要がある。

(2)　言語技術教育を取り入れた学習活動の展開

全校体制で進める言語技術教育を土台として，各教科の実践においてもその手法を取り入れた取組が研究され，生徒の「論理的に思考し表現する力」の高まりが随所に見られるようになった。それに伴い，学び全体の質の向上が見られた。

今後は全校や各教科で育成すべき「論理的に思考し表現する力」の捉えについて検討し，よりよくその力が身に付くような言語技術教育の在り方について迫っていく必要がある。また，「論理的に思考し表現する力」と「持続可能な社会を支える資質・能力」との関連を明らかにし，指導方法における教科間連携を図ることで，それらの力を効果的に育むことができないか探っていきたい。

(3)　資質・能力が育つ評価（パフォーマンス評価等）の工夫

各教科での実践において，生徒が主体的に取り組むパフォーマンス課題を設定し，適切なルーブリック等の評価を作成することで，生徒の資質・能力の育ちを適切に見取ることができた。

しかし，持続可能な社会を支える意識と意欲を高めるという面では，意識調査等での自己評価が低かった。今後は力の高まりを確かに見取るパフォーマンス評価等の開発をしつつ，校内で共有しながら，よりよい評価の在り方を検討していくとともに，振り返り等においてじっくり自分の取組について振り返り評価する機会を保障し充実させていく必要がある。このことは，「望ましい子ども像」に掲げた，「自らを生かして○○しようとする生徒」を育成する上で非常に重要な意味を持つ。

以上のようなまとめを基に，最終年次である来年次は，ＥＳＤの視点にたち，生徒の論理的に思考し表現する主体的な学び合いを通して，次代のよりよい社会を生涯にわたって支え続けることができるような資質・能力の育成につながる研究に励んでいきたい。

お わ り に

３か年継続研究の２年次のまとめとして，多くの皆様のおかげをもちまして，研究成果をご報告できますことに深く，感謝申し上げます。

本校では，昨年度から，研究主題を「持続可能な社会を支える資質・能力の育成ー論理的に思考し表現する学び合いを通してー」と掲げ，本校の教育目標「自立と共生の力をもつ生徒の育成」を目指して教育活動を展開してきました。

平成29年３月告示の新学習指導要領の改善の基本的な考え方では，「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子どもたちが急速に変化し予測不可能な未来社会において自立的に生き，社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成すること。」と示されています。人工知能等で産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性がある社会において，目的に応じた創造的な問題解決を行うことができる人間の強みを伸ばしていくことがこれからの学校教育に求められていると言えます。これはまさしく，より良い社会と幸福な人生を自ら創り出す資質・能力を育成することであり，本校が目指している方向性であります。

そこで，改訂のポイントと本校の研究を以下のように整理し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を一層進めました。

①何を学ぶかー「持続可能な社会の創り手となるために必要な知識や力」

②どのように学ぶかー「論理的に思考し表現する学び合いを通して」

③何ができるようになるかー「自立と共生」

他者と協働しながら共通のねらいに向かう学びの質を高めるために，今年次も言語技術を用いて「論理的に思考し表現する学び合い」に力を入れました。生徒たちは教科の学習活動のみならず，道徳や行く河（総合），学校行事，部活動などいろいろな場面でその成果を発揮しました。「話す」ことによって自己の思考を整理し，「聞く」ことによって，他者の思考の過程を追体験し，自己の考えを広げたり，深めたりすることができました。今後も自分の将来を見据え，持続可能な社会を志向し行動することを「価値」として自覚させ，新学習指導要領が目指す方向性をもとにモデルに値する実践研究となるよう努めてまいりたいと考えます。

生徒の育ちを喜びとして一丸となって真摯に研究に取り組む「チーム附中」は，本日，第97回愛媛教育研究大会に参加いただき，賜りました貴重なご意見・ご指導を３年次研究に生かしてまいりたいと存じます。

最後に後援をいただきました愛媛県教育委員会，公益財団法人愛媛県教育会，愛媛県市町教育委員会連合会，松山市教育委員会，愛媛県小中学校長会，愛媛県教育研究協議会をはじめ，ご指導・ご支援いただきました多くの先生方に衷心より感謝申し上げますとともに，今後とも本校教育の推進にご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2018年２月

愛媛大学教育学部附属中学校　副校長　渡　部　ゆかり

研究アドバイザー

愛媛大学教育学部　教授　城戸　　茂

研究同人及び愛媛大学研究パートナー

校　長　小助川　元太　　副校長　渡部　ゆかり

教科領域	研　究　同　人	愛媛大学研究パートナー
国　　語	細川　美保・大上　航太 丸山　佑樹	三浦　和尚
社　　会	西田　剛志・江角　紀行	鴛原　　進・川瀬久美子・張　　貴民
数　　学	宇都宮憲二・冨永　剛志 山本　泰久	安部　利之・河村　泰之・吉村　直道
理　　科	岡本　慎次・沖野　俊也 森山由香里	中本　　剛・細田　宏樹・向　　平和
音　　楽	三棟　優子	井上　洋一・楠　　俊明
美　　術	野口　理佳	秋山　敏行
保健体育	坪内　道広・古澤　龍也	糸岡　夕里・日野　克博
技　術 ・ 家　庭	斧　　純司	大西　義浩・森　慎之助
	土手　佳代	竹下　浩子
英　　語	河野　　操・河野　圭美	池野　　修・立松　大祐
行く河	濵田眞基子	富田　英司

（50音順）

表紙絵に寄せる思い

緑を浴びる章光堂

1年　峯尾　　空

僕は，附属中学校に入学して初めて章光堂という建物を見たとき，「何て素晴らしい建物だ。」と感動し，青葉写生会では章光堂を描こうと思いました。

僕の画力では，章光堂の迫力を十分に表現することはできませんでしたが，新緑に映える様子に注意して描きました。この絵を描いて，章光堂は附属中学校のシンボルであり，僕たちが誇りに思う建物なので，これから先も後輩たちに受け継いでいきたいと強く思いました。

中表紙絵に寄せる思い

春　陽

3年　竹中　瑞希

私は春の香りが大好きです。

４月27日も土や葉，日向などのとてもいい香りが満ちていました。春の陽とそれらの香りを表したいと思い，一生懸命描きました。特に力を入れた点は，陽射しを浴びた丸太を味わい深い色彩で描いたことです。また，青葉とは対照的な枯葉を描くことで，青葉の瑞々しさや柔らかさを強調できると思い，細部にまでこだわって仕上げました。そのため，階段部分を仕上げるのに時間がかかり，木々の部分は目指していた仕上がりにはできず，後悔と反省の思いがあります。これを今後の課題として，さらに納得できる絵を描いていきたいです。

2017 愛媛大学教育学部附属中学校研究紀要　第70号

平成30年２月

発行者　愛媛大学教育学部
〒790-8577　松山市文京町３番
TEL 089-927-9371
愛媛大学教育学部附属中学校
〒790-0855　松山市持田町１丁目５－22
TEL 089-913-7841　FAX 089-913-7842

印刷所　株式会社　松栄印刷所
〒790-0003　松山市三番町７丁目９－２
TEL 089-941-3334　FAX 089-933-7911

表紙作品：青葉写生会　絵画（水彩）「緑を浴びる章光堂」　1年　峯尾　　空
中表紙作品：青葉写生会　絵画（水彩）「春　陽」　3年　竹中　瑞希